

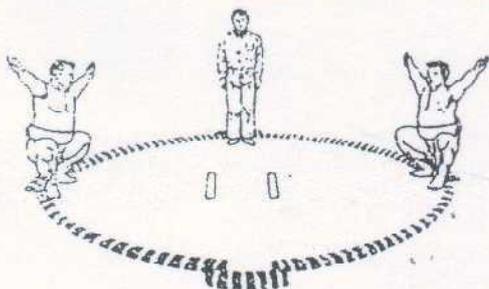
資料

審判の動作 — 指導的な立場・機敏な動作で

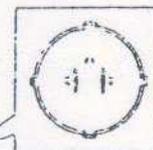
主審の三原則

- 1、土俵上の姿勢は毅然と
- 2、大きな声でハッキリと
- 3、見やすい場所で正確に

(1)



徳俵の内側に立つ。



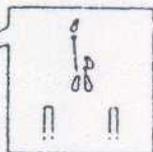
(2) 選手といっしょに中央に入る。



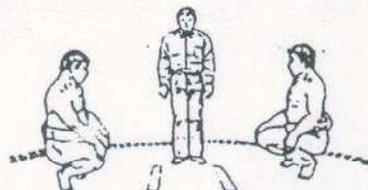
(3)



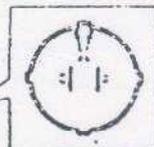
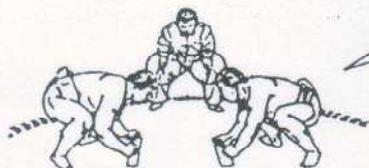
「構えて」と声をかけ、左足を半歩  
右足を約一步半引き、腰を下ろし  
て、左手を仕切り線の中央の構え  
る。



(4) もとの位置に戻る。



(5)



二回目は「待ったなし、構えて」  
と声をかけ両足を一步半引いて開脚  
し（左足から）、両手を前を出して  
構える。そのとき手のひらは内側に  
向ける。

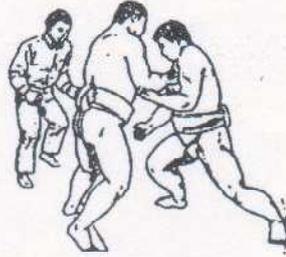
資料 審判の動作

(6)



「はっけよい」のかけ声で立ち合わせる。

(7) 選手の動きに応じて声をかけ、常に判定しやすい位置に動く。

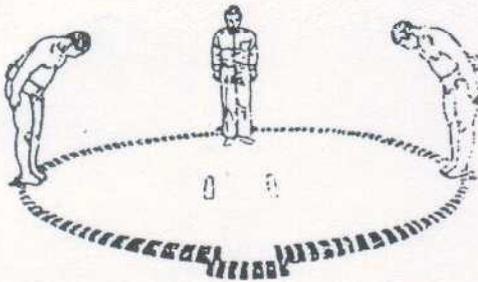


(8)

勝負が決まった時に「勝負あった」と声をかけ、東西いずれかに判定し手を上げる。

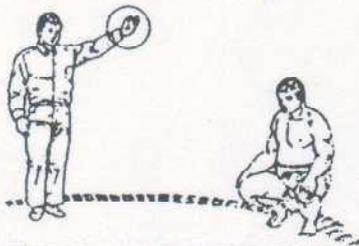


(9) 競技が終了したら最初の位置に戻り、選手に礼をさせる。



(10)

勝った方の選手に「東の勝ち」あるいは「西の勝ち」と勝ち名乗りを上げる。



資料

禁じ手

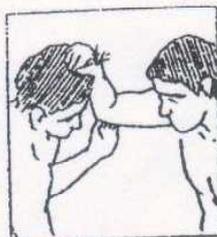
競技者が禁じ手を使った場合、審判はすぐに競技を中止させ、協議のうえ、勝ち負け、またはとり直しを決めます。禁じては公平を図るため競技開始前に競技者に十分説明しておく。



① 張り手



② こぶしで打つ



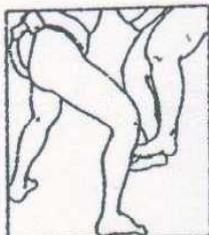
③ 髪の毛をつかむ



④ のど輪



⑤ 前ぶくろをつかむ



⑥ 向こうげり



⑦ 逆指



⑧ さば折り



⑨ かわずがけ



⑩ 居ぞり



⑪ 首抱え込み



⑫ 頭を相手の胸の真ん中より下に入り込ませる



⑬ 後ろのたてみつをつかむ



⑭ かんぬき



⑮ 組んでいるとき自分の指を組み合わす